



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 平成22年度昭和大学入学式挙行される

歯学部長 宮崎 隆

平成22年度昭和大学入学式が、去る4月12日(月)午前10時より、原宿の明治神宮会館に於いて執り行われました。今年の東京は天候の変化が激しく、前日の初夏の陽気から一転、雨の寒い日になりました。しかし、明治神宮境内は櫻などの新緑が美しく、厳粛な雰囲気にも包まれていました。

今年の新入生は、医・歯・薬・保健医療学部合わせて、595名(編入生を含む)でした。ご父母の出席も含めて、1800名収容の会場は2階席まで埋め尽くされました。



昭和大学管弦楽団の格調高い演奏に引き続き、役員が登壇して会が始まりました。細山田学長が本学は真の医療人を育成するために社会に対して責務があるので、全寮生活をベースにした富士吉田校舎での1年間を有意義に過ごして、医療人の原点である人間性を涵養するようにと力強い告辞をされました。続いて小口理事長から本学は医系総合大学で社会から非常に高い評価を受けているので、本学に入学したことを誇りに持って頑張ってください、そのための支援を惜しまないと激励がありました。

各学部の代表による新入生の宣誓があり、歯学部を代表して羽鳥綾乃さんが、超高齢社会になり歯科医師の役割が広がりがつつあるので、患者さんの健康に貢献するために幅広く学業に励みたいと力強く宣誓をしました。在校生を代表して、新入生歓迎行事実行委員会から、自分たちの新入生時の経験をもとに今後の学生生活へ向けて歓迎の挨拶がありました。引き続き恒例になった応援指導部の演武で会場が盛り上がり、最後にグリーンクラブのリードで校歌を斉唱し閉会しました。新入生は昼前に14台のバスに分乗して富士吉田キャンパスに向かいました。



今年は全国的に歯学部の志願者が激減するなかで、本歯学部はアドミッションポリシーに基づいて、本

学で学ぶ意欲があり、基礎学力とコミュニケーション能力に優れた人材を選抜して入学させることができました。本歯学部は医系総合大学の恵まれた環境の中で、建学の精神である「至誠一貫」のもと、超高齢社会の国民の健康にチーム医療の立場から貢献できる歯科医療人の育成を目標に、カリキュラムポリシーを明確に打ち出しています。今後、新入生が富士吉田校舎、旗の台校舎、洗足校舎と、学年を経て着実に成長していくことを期待しています。さらに、本歯学部では卒業時の臨床能力についてもコンピテンシーをもとにディプロマポリシーを明確にしているので、新入生が6年後に自信を持って社会に羽ばたき貢献する日を今から楽しみにしています。

## 平成22年度新入職員入職式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

学校法人昭和大学の平成22年度新入職員入職式が、桜が華やかに開花した4月1日午前10時から上條講堂で開催されました。本年度採用された新入職員は、教育職240名、行政職25名、看護職422名、技術・技能職43名、医学部臨床研修医77名、歯学部臨床研修医71名の合計878名で、会場は2階席までほぼ満席の新入職員で埋まりました。式は外川人事部長の司会で進行され、最初に小口勝司理事長が、学校法人の歴史と建学の精神を紹介し、日本一の大学を目指して一緒に力を合わせて頑張りたいと挨拶しました。引き続き細山田学長が挨拶し、本学が一般の企業と異なるのは医療人になる学生を教育している大学であることと、附属病院で患者に奉仕していることであり、職員すべてが教育への責任と奉仕の精神を持つことが重要であると強調されました。小口理事長から代表の塚本さんに辞令が交付されました。新入職員の宣誓があり、最後に校歌斉唱で10時半に閉会しました。

引き続き、上條講堂で新入職員を対象にした人権啓発講演が行われました。午後は各施設、職種別にオリエンテーションが行われました。新入職員が新しい職場に早く慣れて活躍することを期待します。



## 平成22年度白衣授与式 進級式が行われました

教育委員長 井上 美津子

新年度を迎え、平成22年度の進級式および白衣授与式が4月2日(金)に行われました。

白衣授与式は今年で2回目を迎え、上條講堂で午前10時より開式となりました。歯学部5年生全員とご父兄、教職員に加えて2年生も参列し、長谷川歯学教育研修センター長の司会のもと、式は厳粛に進行しました。この白衣授与式は5年生が臨床実習を開始するに当たり、大学より白衣を授与して臨床実習生としての心構えを新たにしておうというものです。宮崎学部長の告辞、4年時の成績優秀者の表彰に続き、壇上で8名の教員から白衣の授与が行われました。一人ひとり白衣を着せかけられて皆、神妙な面持ちでした。学生代表の宣誓の後、細山田学長、岡野歯科病院長、石川看護師長から祝辞をいただき閉式となりましたが、あいにくの雨天のため記念写真の撮影は上條講堂内で行われました。

2年生から6年生の進級式は、午前・午後に分かれてそれぞれの講義室で行われました。学部長、学生部長、教育委員長からの挨拶および説明と事務からの伝達事項が伝えられ、2年生と5年生は新しい指導担任の紹介も行われました。

夕方には歯科病院の地下食堂でささやかながら5年生と教員の懇親会が開かれました。



## 学部連携病棟実習トライアルが行われました

口腔衛生学 向井 美恵

平成23年度から必修となる「病院で患者中心のチーム医療を実践する」学部連携病棟実習のトライアルが3月8日から12日に昭和大学藤が丘病院整形外科病棟と藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーション病棟において行われました。本実習は歯学部では5年次の臨床実習に組み入れられ「病棟で複数の学部学生が連携して患者を担当し、チーム医療の実践に必要な知識、技能、態度を習得する」ことを目標にしています。

今回のトライアルは、4学部から参加した14名の学生が7名ずつ2病院に分かれて行われ、歯学部か

らは5年生3名が参加しました。対象患者さんの絶大の協力と担当診療科の医師、病棟看護師、藤が丘病院歯科室、事務職員など多くの関係者の協力の下に薬学部の木内教授を中心に各学部から指導教員が実習指導にあたりました。

参加した歯学部学生は、最初は若干の戸惑いも見られましたが積極的に患者側にたった歯科医療の問題点やケアの提案などを行い、患者中心のチーム医療の実践に向けて医療チームの一員として積極的に他の学部学生と討議していました。

本実習は平成22年度に対象病院・病棟を拡大した大規模トライアル、23年度には各附属病院・病棟で本格実施の予定です。



## 昭和大学歯学部口腔癌包括的研究センター公開シンポジウム 開催される

口腔病理学教室 入江 太朗

去る平成22年3月13日(土)、昭和大学歯科病院にて昭和大学歯学部口腔癌包括的研究センター平成21年度公開シンポジウムが開催されました。本研究センターは、平成20年度より、文部科学省私立大



学戦略的研究基盤支援事業の補助を受け「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究—発症メカニズムの解明から QOL の向上を目指した包括的リハビリテーションまで—」を研究課題として組織されています。今回は2回目のシンポジウムの開催となりました。本研究センター代表者の立川哲彦教授の開会挨拶に続き、ゲノムサイエンスの第一人者である東京大学先端科学技術研究センターゲノムサイエンス分野教授の油谷浩幸先生による「がんゲノム解析から臨床応用への研究戦略」について特別講演が行われました。大変興味深い講演でありフロアからの活発な議論が相次ぎ予定時間を延長して終了しました。その後、各研究班による研究成果発表が行われ、活発な議論の後、新谷悟教授の挨拶で全ての会が終了しました。

準備運営担当の口腔病理学教室、顎口腔疾患制御外科学教室、歯周病学教室と致しまして、各研究班のシンポジストの先生方をはじめ、ご協力頂いた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

## 平成22年度大学院入学式 举行される

大学院歯学研究科運営委員会 上條 竜太郎

去る4月3日(土)午前9時より、上條講堂に於いて、平成22年度昭和大学大学院入学式が執り行われました。今年度の入学者は、医学研究科57人、歯学研究科30人、薬学研究科後期博士課程4人、保健医療学研究科12人の合計103人でした。

はじめに細山田学長から、「これからは大学院で研究に専念し、4研究科の利点を活用して、成果を出してほしい」との告辞が述べられました。続いて小口理事長が、「大学院は国内の最高の教育機関であり、世の中のリーダーとなることを目的としている。4研究科が協力して良い研究を行うと共に、入学者は見識のある人に育ててほしい」と祝辞を述べられました。

続いて各研究科長からそれぞれ挨拶があり、医学研究科樋口慧君による新生宣誓、グリークラブによる校歌斉唱があり、午前11時に閉式となりました。



## 4年生学部連携 PBL トライアルが行われました

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人を育てる」をキーワードとして、医療系総合大学の特色と全寮制という環境を活かして、4学部連携教育を推進しています。この教育の卒前のゴールは、平成23年度から5年生で本格実施する昭和大学附属8病院における「4学部連携病棟実習」です。学部間連携教育運営委員会では、実際の入院患者さんの医科、歯科、薬剤、看護、理学、作業にわたる医療情報を4学部学生が共有し、患者さんの問題を把握した上で、患者さんにとって望ましい治療・ケアを提案する実習の準備をしています。5年生で行う「4学部連携病棟実習」のシミュレーションとして、4年生では、模擬カルテをシナリオとして学生に提示し、共有した情報を基に、患者さんの問題点を明らかにし、対応策をグループで討論する学部連携 PBL を今年度から必修科目として、平成23年3月に行います。

このたび、4年生学部連携 PBL のトライアルを4学部のボランティア学生14名に協力してもらい3月15日、16日に行いました。病棟カルテは、実在の患者さんのカルテに基づき、医科の病棟カルテと歯科カルテに加え薬剤管理記録、看護記録、リハビリテーション記録と温度板、指示簿を合わせた100ページを超えるものとなりました。

学生は7名ずつ2グループに分かれ、1日目は午

前中に入院時の基本情報、午後は入院後の経過(2週間分)をそれぞれの学部に関連する部分を1日ずつ皆で読み合わせながらグループでまとめました。最後に入院最終日の患者さんが有するさまざまな問題点をプロブレムマップの形にまとめて、グループで共有しました。2日目はプロブレムマップから問題点リストを作成し、治療・ケアプランの立案を行いました。最後に2グループで発表会を行いました。グループによって治療・ケアプランが異なり、白熱したディスカッションとなりました。トライアルに参加していた4学部の教員もリソースパーソンとして、討論に加わり、教員としても興味深いトライアルとなりました。今回のトライアルから得られた反省点を生かして、8月に再度トライアルを行う予定です。



## 平成21年度共同研究発表会開催される

口腔生化学教室 高見 正道

去る3月20日、昭和大学共同研究平成21年度研究成果発表会が開催されました。この共同研究は、医学部、歯学部、薬学部、そして保健医療学部の基礎研究と臨床研究の融合を実現するための昭和大学独自のプロジェクトであり、昨年度、新たに5つの研究課題、「脳による生命・恒常性維持の基盤研究と臨床研究」、「炎症・免疫システムの新たな paradigm による病態の解明と治療法の開発」、「分子再生医療の基盤解析」、「酸化ストレスと組織障害機構解明及びその予防と治療への応用」、「生活習慣病に基づく臓器障害の進行(再発)予防」がスタートし、今回は2年目の発表会となりました。

私たちも研究分担者として参加し、骨形成誘導を促進する因子についての研究成果を発表しました。発表を通じて歯学部以外の研究者と交流することができ、同時に、昭和大学の研究レベルの高さを感じました。閉会の際、細山田学長が競争的研究資金導入のいきさつと研究成果に対する期待を述べられました。

ところで、「チーム医療」という言葉がありますが、共同研究はまさに「チーム研究」を実現するための貴重な場であると思います。閉会后、来年はもっと良い研究成果を発表したいと思いながら会場を後にしました。



## アデレード大学での海外研修に参加しました

歯学部4年62番 中里 友香理

オーストラリアのアデレード大学歯学部で春休みに2週間、海外研修に参加しました。

歯学部は5年制で1年生から講義と平行して相互実習が始まり、3年生以降は学生クリニックで患者さんの治療を行っています。学年によって治療内容が決まっており、3年生は保存治療とスケーリング、4年生ではクラウン・ブリッジと歯内治療が加わり、5年生では全ての治療と口腔外科(智歯の抜歯)を行っています。移民が多いため、通訳者が治療に立ち会うこともあり、日本との違いを感じました。また大学病院は個人病院よりも治療費が安い上に歯科医師不足ということもあり患者さんは2年ほど予約待ちという状況の中で来院していました。学生は患者さんと上手にコミュニケーションをとりつつ、説明を丁寧に行っていて、とても良い信頼関係が築かれていたと思います。

3年生から臨床の現場に立っているからか、学生達はモチベーションが高く、先生と活発に意見交換をしていて、講義や実習でどうしても受身になりやすい私はそこに大きな壁を感じました。学生達とお互いの国の歯科医療について話し合ったことで、客観的に日本の歯科の良い面と悪い面を理解できたような気がします。「他を知ることで自を知る」、世界から見た日本を知ることで、その国に合った良い医療とは何なのか、考えるきっかけをくれた大変貴重な体験となりました。



## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 5月12日(月):D2健康診断
- 5月13日(火):D3健康診断
- 5月14日(水):D4健康診
- 6月 4日(金):D2防災訓練
- 6月19日(土):父兄会総会
- 6月25/26日(土日):富士吉田寮祭・オープンキャンパス

## 診療統計(平成21年3月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	20,814	800.5	655.9	802.0
入院患者	498	16.1	17.7	15.4

## ポートランド州立大学春季英会話集中プログラムに参加しました

歯学部5年39番 瀬瀬 美沙子

春休み中の2週間という短期滞在でしたが、歯学部5年生4名と薬学部4年生4名の計8名でこのプログラムに参加しました。滞在中は、昼間はポートランド州立大学に通って英会話やアメリカ文化について授業を受け、放課後は自分たちでダウンタウンやウォーターフロントに出かけてポートランド市を観光し、夕方にはそれぞれホストファミリーの家に帰るといった毎日を過ごしました。



この2週間を通して私が出たものはすごくたくさんあって、その中でも特に「積極的」であることの重要性を強く感じました。ホストファミリーとの生活を始めて数日は、話したいことがあっても、あれは英語でなんて言うかな、などとあれこれ考えているうちに結局何も言わずに終わることが多くて悶々としていました。でも、今自分に何ができるかを考えた時、とにかく積極的に自分からしゃべるしかないと思いました。それで、知っている限りの英語を使って、英語が分からないときも、たとえ英語じゃなくてもしゃべり続けました。私が必死に話すと、ホストファミリーは熱心に耳を傾けてくれて、私が話したかった内容を、「こういうこと?」といった感じで聞き返してくれました。コミュニケーションがとれたと感じた瞬間は、まさに言葉にできない達成感で、英語を身体で勉強することができました。

4月からいよいよ臨床実習が始まり、教科書とマネキンや模型を相手にしていた今までとは全く違う環境になります。積極的に臨床実習に参加することで、自分自身を成長させると同時に、楽しいと感じられる充実した1年間にしたいと思います。この研修でお世話になりましたホストファミリー、ポートランド州立大学と昭和大学の先生方に心から感謝いたします。

## 昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

- 野中 直子 講師(口腔解剖学)
- 中川 量晴 助教(口腔衛生学)
- 鎌谷 宇明 助教(病院長直属)
- 藤田 温志 助教(病院長直属)
- 小出 容子 助教(病院長直属)

## 編集後記

歯科薬理学教室 坂井 信裕

年度始めのお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿下さいました諸先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。